

久米賞 佳作 受賞作品

全てを忘れない



郡山市立緑ヶ丘中学校

上國料 貫 太

翼を広げて

僕らは、真っ白だ

僕らは、何にも染まっていない

たくさんの色と出会い

たくさんさんの折り目をつけられ

時には小さくなったり丸められたり

でも必ず最後は

自分の好きな色を身にまとい

大きな翼を広げる

そう、紙飛行機のように大きく高く遠くへ

洗濯

宝石を見つけた

とてもキラキラと輝いている

少し穴が空いているけれど

そろそろ帰るよ

僕は宝石をポケットいっぱい拾い集めた

いつも帰ったら服は洗濯機に入れる

おかあさんがきれいにしてくれるからだ

乾いた服のポケットには

ただのどんぐりが入っていた。

君だけの冷蔵庫

私だけは知っている

夜中の君の姿を

氷は三つにウーロン茶

ヨーグルトは必ず二段目のを食べる

たまにカップラーメンに卵を入れるよね

ご飯には、鶏そぼろ

夜食を食べる前に

たいてい私の所に五回は来るよね

でも、私はそんな君を見ているのが大好き
おいしく冷やしておくから
一緒に夜の時間を楽しもうね

距離

ごはんどうしようか。

なんでも。

じゃあハンバーグでいいかな。

うん。

言葉の距離が離れすぎれば

心もやがて離れていくと私は思う。

では

言葉を密にしてみよう。

ごはんどうしようか。

なに食べたい？

なんでもおいしいけど、今日はお肉が食べたいな。魚でもいいし。
何作る予定だった？

じゃあハンバーグでいいかな。ちょうどお肉余ってるんだ。魚が
よければ別のも作れるけど、どうしようか。

うん。ハンバーグでいいよ。楽しみだな。君のハンバーグはいつ
もおいしいんだ。いつも作ってくれてありがとう。

離れることが求められる時代でも、言葉と心だけは密でいたいと
私は思う。

全てを忘れない

かんだ、これ見てごらん

かんだ、ほら、これきれいだね

かんだ、見てさわってごらん

かんだ、あれ、きれいだね

たくさんものを一緒に見て教えてもらった

これ見える？

ほら、ここだよ

見てさわって？

あれ、きれいだよ

ばあちゃん

ばあちゃんが僕を含む全ての事を忘れても
僕はいつまでも、いつまでも忘れないよ

(指導教諭／緑 川 道 子)

《作品の意図》

私は、この十五年間で、たくさんの事を経験しました。家族と喧嘩したり、コロナウイルスが蔓延したり、初めての受験勉強をしたりと、その全てがいい思い出とは限らないけれど、今まで忘れられずに記憶に残ってきました。そんな日常の一コマを詩で表してみました。また、私の母は仕事をしていて、いつも祖母が私の世話をしてくれていました。そんな祖母が変わっていく悲しさも詩で表しました。

《作品の寸評》

表題作『全てを忘れない』は、読者にさりげなく差し出された言葉がいつまでも胸の奥に残る優れた作品である。だれにでも自分にとってかけがえない人が存在する。そのことの重みをしみじみと感じる。『洗濯』は個人的にとっても好きな作品で、「乾いた服のポケットには ただのどんぐりが入っていた」とあるが、これらは「ただのどんぐり」ではないと思う。一つ一つがそのときの作者に選ばれた特別なものだからである。作者が後年この作品を読み返した時、きつと自分の中学生時代を身近な誰かにそつと話してみたくなるだろう。どうぞ、あなたの「どんぐり」と「言葉の距離」を大切に、これからも詩に親しんでほしいと切に願う。

(審査員／柳 沼 智 恵)